

地球・生命・環境と人類

選択 2単位

大森 享・安 ウンギョン

1. 授業の概要(ねらい)

21世紀は『環境といのちの世紀』と言われている。それは20世紀の後半に経済が多くの歪みを伴いながらかつてないほど急速な成長を遂げたことにより『環境といのち』が危うくなったことを反省している為である。現在世代の暮らしは将来世代の取り分まで使いながら、あるいは地球にその環境収容力以上の負担を掛けることによって成り立っている。

『持続可能な発展』という方向性が示されてから40年以上が経つが、グローバル化・肥大化・細分化する現状のもと、格差のある先進国・新興国・発展途上国の個人は全体を見通すことが出来ず、21世紀を豊かな『環境といのちの世紀』することは混迷を深めている。例えば 福島原発の事故も想定する範囲を限定し、全体を見通せずに我々が無定見に“安全神話”を受け入れたことが大きく作用した。

このような現状を考えると、21世紀の教育を担うものは、各人の孫の世代あるいは全世界の未来世代が地球の恵を享受できるような『持続可能な発展』の実現を視野に入れ日々の実践を行う必要がある。

そのためには一度ゆっくりと21世紀の地球のあるべき姿のビジョンを、世界観・価値観を整理しながら描く必要がある。近年の日本に於ける小・中学校環境教育実践の試みを検討しながら、その実践を生み出した要因に関しての授業分析を行う。また、第4回5回の授業での本学に隣接している里山へのフィールドワークと特別講義を通して、環境教育実践の指導プランと教材作成の観点について具体的に学ぶ機会としたい。

この授業は主に二つの部分からなる。一つは生命・環境に関する先進的な学校教育実践(教科や総合的な学習の時間、その他)の実例を考察する。その中には、八王子キャンパスの周りの身近な自然である多摩の里山に触れる(フィールドワークを行う)。

二つには、1970年代以降の「成長の限界」(ローマクラブ・1972)の提起以降の国際的環境教育とESDの動向の中で、日本の環境教育・ESD教育がどのように行われているかを検討し、これからの環境教育・ESDの可能性と課題を考える。

最後に講義を通して学んだことを、如何に各自の教育実践の中に生かすかを発表する機会を設ける。

2. 授業の到達目標

地球・生命・環境の成り立ちと人類の歩みを理解し、『持続可能な発展』を実現できるような21世紀を担う子供・青年を育てる教育を実践できるような教科・領域横断的なものの見方を修得し、具体的な教育実践事例を構想することができる。

3. 成績評価の方法および基準

最終の授業時における発表(50%)と、毎回の授業における討論(50%)で評価する。試験は行わない。

4. 教科書・参考文献

教科書

三石初雄・大森享編著 『小学校環境教育実践シリーズ 1-4』(1998)

旬報社

大森享編著 『環境学習をはじめよう』(2005) ルック

生方・神田・大森 『ESDをつくる』(2010) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

教科書と参考文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。

6. その他履修上の注意事項

教師として各自の世界観・価値観を研ぎ続け、メッセージ性のある授業ができるよう自分を鍛えて欲しい。短期的な目先のことだけでなく、悠久の時の流れ、大きく広がる世界を見ながら、じっくり将来を見通すようなビジョンを持てるように頑張ってください。

7. 授業内容

- 【第1回】 今日の子どもと青年にみる「自然とのかかわり」における諸課題について話し合い、学校教育への期待と課題がどういう点にあるのかについて整理する。
- 【第2回】 生活科における生活・環境教育実践の先駆的实践から、今日の環境教育実践の可能性と課題を探る。
- 【第3回】 小学校の環境教育実践(低学年)の先駆的实践から、今日の環境教育実践の可能性と課題を探る。
- 【第4回】 帝京大学近隣の多摩市和田にある里山「ななやま緑地」を、相田幸一さんの案内で探訪・フィールドワークする。荒天の場合は予定変更あり。
- 【第5回】 帝京大学近隣の多摩市和田にある里山「ななやま緑地」を、相田幸一さんの案内で探訪・フィールドワークする。荒天の場合は予定変更あり。
- 【第6回】 小学校の環境教育実践(高学年)の先駆的实践から、今日の環境教育実践の可能性と課題を探る。
- 【第7回】 中学校の環境教育実践の先駆的实践から、今日の環境教育実践の可能性と課題を探る。
- 【第8回】 戦後初期の環境教育実践の課題を中学校社会科・田中裕一実践から検討し、その実践的意味を検討する。
- 【第9回】 戦後の日本の環境問題・環境教育政策から見た環境教育実践の課題
- 【第10回】 小学校教育カリキュラムにおける環境教育(教科書教材にある環境教育素材を探り、発表、分析する)
- 【第11回】 学校における環境教育の内容編成原理の検討
- 【第12回】 環境教育実践における教材選定の視点と教材開発
- 【第13回】 「環境科」を中・高に設置している、韓国における教育課程と「環境科」教科書から環境教育の可能性と課題を探る。
- 【第14回】 「環境科」を中・高校で設置している、韓国における教育課程と「環境科」教科書から環境教育の可能性と課題を探る。
- 【第15回】 『この授業で学んだことを、学校ならびに学校外での教育実践で生かすとする?』について各自発表する。受講者の人数によっては多少の変更あり。